

序

シェーグレン症候群（Sjögren's syndrome：SS）は、涙腺・唾液腺を主とした全身の系統的な外分泌腺の障害をきたす自己免疫疾患の1つです。一方、種々の自己抗体の出現やγグロブリンの高値を認め、多彩な腺外症状を認めることでも知られています。小児では、成人SSの特徴である乾燥症状を主訴に受診してくる症例はほとんどおらず、原因不明の発熱や下肢の紫斑で発見され精査によってようやく診断がついたり、慢性疲労症候群と同様な強度の全身倦怠感に常時さいなまれた患者さんもいました。慢性疾患として位置づけられているので、経過中にさまざまな臓器障害を呈してくる例も少なくなく、適切な診断と経過観察を要する疾患であるともいえます。

今回、厚生労働省科学研究「若年性特発性関節炎を主とした小児リウマチ性疾患の診断基準・重症度分類の標準化とエビデンスに基づいた診療ガイドラインの策定に関する研究」のSS分担班の班員が協同して本手引き原案を作成し、日本小児リウマチ学会と日本リウマチ学会の協力、日本シェーグレン症候群学会の監修を得て完成することができました。

この「小児期シェーグレン症候群診療の手引き」では、主に一般病院・診療所での日常診療に重きをおき、本疾患の発見、診断、治療について一冊にまとめていますので、お気軽に手に取ってみてください。もしご興味がおありになるなら、日本シェーグレン症候群学会から発刊されている「シェーグレン症候群の診断と治療マニュアル 第2版」（日本シェーグレン症候群学会/編，診断と治療社）や厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業「自己免疫疾患に関する調査研究」による「シェーグレン症候群診療ガイドライン2017」（診断と治療社）を同時にぜひ参照いただければ幸いです。

全体を通して読んでいただければ、小児期発症SSとはどのようなものか、どういう特徴があるのか、しっかりわかっていたいただけると確信しています。

2018年3月

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業 若年性特発性関節炎を主とした小児リウマチ性疾患の診断基準・重症度分類の標準化とエビデンスに基づいたガイドラインの策定に関する研究班

研究代表者

森 雅亮